

多職種間の業務連携を深める には・・

あかなすの里

取り組んだ課題

職員の募集をかけてもなかなか応募がなく人員は足りない中でそれぞれの利用者さんに快適な生活を提供するために各職種間による業務の連携について取り組んでみました。

具体的な取り組み

以下の3点に絞り検討を行いました。

- 各職種の現在の業務内容の検討・時間の見直し
- 連携できる業務の内容の確認
- 連携に向けた勤務表の変更

各職種の選別

- ・介護業務……………介護の一番基本となる
- ・看護業務……………介護との連携が不可欠
- ・機能訓練業務………生活機能の維持
- ・相談員業務……………家族への対応の中心

各職種の業務内容の検討・時間の見直し

介護……………

9時30分	ラジオ体操
11時	水分介助
11時30分	食事介助
14時	おやつ介助
17時30分	夕食介助
18時15分	就寝介助

各職種の業務内容の検討・時間の見直し

機能訓練士……

9時45分	口腔ケア体操
11時	嚥下体操
11時30分	食事介助
17時	嚥下体操
17時30分	ケース・日誌 記録

連携できる業務の内容の確認

介護……………おむつ交換の時間
利用者さんの入浴の順番
看護……………医療的処置の時間
機能訓練…食事介助。就寝介助の応援
相談員……食事介助・入浴介助の応援

各職種の勤務表のすり合わせ

各部署の勤務表の製作者

介護 ………………介護長
看護 ………………施設長
機能訓練……………施設長
相談員 ………………介護長

変更・協力した業務

9時30分 ラジオ体操
介護士 → 機能訓練士
11時30分 昼食介助
介護士 → 介護士・相談員
機能訓練士
17時30分 夕食介助
介護士 → 介護士・相談員
機能訓練士
18時15分 就寝介助
介護士 → 介護士・機能訓練士

表れた結果

9時30分 介護職員が水分介助・利用者の見守りに集中できるようになった。
11時30分 昼食介助
相談員・機能訓練士が応援にはいてくれることにより一人一人の利用者さんにゆっくりと介助ができるようになった。
17時30分 夕食介助
早出しの利用者さんの減少につながり、利用者それぞれの食字接種量がアップした。
18時15分 就寝介助
機能訓練士が応援にはいてくれることにより利用者さんの就寝介助が10分ほど早く終わるようになった。

残された課題

- ・介護職員の経験値によって応援の機能訓練士などに適切な指示が出せない時がある。
- ・利用者さんの状態を把握してないまま、食事介助にはいつてしまうときがみられた。
- ・摂取量などの記録に漏れが見られることがあった。

まとめ

多職種間の業務連携を深めるには……

日ごろから、それぞれの職種の業務内容を理解し情報交換を常に行うこと…
が重要だと感じました。